

令和3（2021）年度  
自己点検・評価報告書  
（抜粋）

鎌倉女子大学 中等部・高等部



## 第2章 中・高等部 自己点検・評価

## 1. 教育目標

1-①	・建学の精神に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
2021年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教職員及び生徒が学校教育目標を共有できるようにする ②学校教育目標、学校運営目標の具現化を図るために、校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を意識した学校運営を行う。
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ・建学の精神の実現のために、「自己を高める豊かな人間性を育成する」「自立して活躍できる確かな学力を育成する」「世界で通用する語学力と国際性を育成する」「持続可能な社会に参画する力を育成する」の4つの学校教育目標を令和元（2019）年に設定した。それから3年間、必ず学校説明会で建学の精神とともに毎回紹介してきた。 ・校務委員会の各委員会が重要経営指標（KPI）を令和2（2020）年に設定し、今回で2年目となった。目標の達成度を数値で測ることで、取り組みを客観的に評価する姿勢を教職員が持てるようになってきた。また、一部の組織では、KPIの見直しも行うようになった。
今後の課題	【中・高共通】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により、部長講話などの回数が以前より少なくなっているため、始業式や終業式の講話などを生かして学校教育目標について触れる機会を増やすようにする。 ・生徒の実態を反映させられるような重要経営指標（KPI）の設定を行うために、生徒に対する各種の調査や生徒アンケートの内容を反映できるように各組織でKPIの更なる見直しや拡充に取り組む。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①教職員及び生徒が学校教育目標を共有できるようにする。 ②学校教育目標、学校運営目標の具現化を図るために、校務分掌の各部署が重要経営指標（KPI）を設定し、目標の達成度を意識した学校運営を行う。
1-②	・中等部・高等部の状況を踏まえ、重点化された中・短期の目標が定められているか。
2021年度の	【中・高共通】

取組目標	<p>①教育活動として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）の2点を重点目標に設定する。</p> <p>②学校運営として、「選ばれる学校にする」「大学進学実績を向上させる」「効率的な組織運営に取り組む」の3点を重点目標に設定する。</p> <p>③ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「21世紀型能力の資質能力を育成する」ために、「学力向上プラン」「英語・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」に基づき各事業の実施計画や各学習プログラムを作成し、概ね実施することができた。また、「豊かな人間性を育成する」ために、「心の教育プラン」に基づき各事業の実施計画を立案・実施することができた。</li> <li>・「選ばれる学校にする」「大学進学実績を向上させる」「効率的な組織運営に取り組む」の達成のために、「広報活動」「校内組織」「学校評価」「校務の効率化」「研究研修活動」の各プランを完成させた。</li> <li>・ユネスコスクール認定について、令和2（2020）年度1年間のチャレンジ期間を専門家が審査した結果、令和3（2021）年9月に文部科学省への推薦が決定した。現在は日本ユネスコ校内委員会の審査結果を待っているところである。そこをパスすると、その後はユネスコ本部（パリ）の審査を経て、ユネスコスクールの認定となる。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2（2020）年度スタートしたばかりの教育の重点目標と重点取組分野のため、中期計画に合わせて令和6（2024）年までは継続していく。</li> <li>・学校運営の重点目標は現在3つあるが、教育の重点目標と同様に2つにまとまっている方が分かりやすいため、「大学進学実績を向上させる」を「選ばれる学校になる」に含める。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、ユネスコスクール認定の審査がスケジュールよりも数か月ほど遅れているが、本校としては、ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に取り組みつつ、ユネスコスクールの認定までの様々な手続きを正確に行う。</li> </ul>
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校教育の重点目標として、「21世紀型能力の資質能力を育成する」（知）と「豊かな人間性を育成する」（心）を設定する。</p> <p>②学校運営の重点目標として、「選ばれる学校になる」と「効率的な組織運営に取り組む」を設定する。</p> <p>③ユネスコスクールへの加盟を目指して、ESD（持続可能な開発のための教育）と国際理解教育に計画的に取り組む。</p>

## 2. 教育課程

2-①	・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>②週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。</p> <p>③教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し、実施する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①令和3（2021）年度完全実施の学習指導要領に基づく中等部教育課程を確実に実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>②令和4（2022）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成に取り組む。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <p>・学校教育目標と学習の手引きや年間学習指導計画表を整合させることにより、組織として総合的に学力向上に取り組むことができた。</p> <p>・週休2日間に合わせた年間行事、日課表を編成することができた。</p> <p>・学校教育目標を具現化するための教科等横断的な学習として、「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を策定のうえ、計画どおり実施した。</p> <p>【中等部】</p> <p>・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保を行い、実施することができた。</p> <p>【高等部】</p> <p>・令和4（2022）年度完全実施の学習指導要領に基づく教育課程の編成に伴い、教職員への周知及び教務規定の改定を行った。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・学力向上を目指した教科の教育課程の運営・改善に継続的に取り組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>・教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていく。</p> <p>【高等部】</p> <p>・教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保を行っていく。</p>
【中等部】 資料	【資料2-1】 授業時数
【高等部】 資料	【資料2-1】 教育課程

2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学力向上を目指した教科のカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>②週休2日制に合わせた年間行事予定、日課表を編成し、実施する。</p> <p>③教科等横断的な学習として「心の教育プラン」「学力向上プラン」「英語教育・国際理解教育プログラム」「ESDプログラム」「キャリア教育プログラム」を編成し、実施する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていく。</p> <p>【高等部】</p> <p>①令和4（2022）年度完全実施の高等部教育課程を確実に実施する。</p>
-----------------	--

2-②	<p>・教育課程の実施に必要な、教科等の年間指導計画や週案などが適切に作成されているとともに、教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。</p>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科会を定期的で開催し、教科の指導方針や教材・教具、指導方法等に関する情報の共有を行い、教科としての指導体制をいっそう整備する。</p> <p>②学習の手引きを作成し、活用することで授業の充実を目指す。</p> <p>③バランスの良い授業時数の配当を行い、各授業進度の管理を行う。</p> <p>④学習指導委員会が特別活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、道徳の年間指導計画を作成し、それに基づき、各学年が学習指導案や実施計画を作成する。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科内での情報共有を適切に行うことができた。</li> <li>・シラバスを生徒各自のタブレットに導入し、いつでも活用することができた。</li> <li>・教科科目配置バランスを考慮した時間割が作成されるとともに、すべての教員が進度及び時間数の管理を行い、授業を進行するよう努めることができたが、新型コロナウイルス感染症の拡大による、まん延防止法等重点措置の発令により、授業時間の短縮が長引き、所期の計画どおりに進めにくい状況であった。</li> <li>・各学年において実施計画が作成され、適宜運営されたが、コロナ禍における実施に苦慮する状況であった。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>①本年度同様、教科指導を充実させる。</p> <p>②本年度同様、シラバスを活用し、授業内容を充実させる。</p> <p>③依然と長引く新型コロナウイルス感染症対策の対応によって、授業時間短縮や下校時刻の繰り上げによる放課後の特別講習の時間短縮などは今後も懸念</p>



<p>(目標に対する取組内容と成果)</p>	<p>に、生徒の学習状況に応じて小テストやレポートなどを課したり、また実験実習や調べ学習やその発表を行うことで、観点別学習状況の評価を行っている。高等部では観点別学習状況の評価は行っていない。長期欠席者の評価については、中等部・高等部とも教務規定に則って評価している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務システムを活用することで、効率的に評価・評定を算出することができた。また、指導要録や調査書の作成にも活用することができた。</li> <li>・中等部での平均点は、国際教養コースで目標達成が40%で、点数の超過が36%で、不足が24%、プログレスコース・特進コースで目標達成が51%で、点数の超過が11%で、不足が38%であった。高等部では、国際教養コースで目標達成が41%で、点数の超過が45%で、不足が14%、プログレスコース・特進コースで目標達成が36%で、点数の超過が18%で、不足が46%であった。国際教養のほう学習内容をよく理解していることと、高等部の方が問題が難しいことが見えてくる。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳や総合的な学習の時間の指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒自身が記入するリフレクションシートと、記入結果を自動的に評価文章に反映できるファイルを年次進行で中等部1・2年まで作成し、評価の視点を共有することができた。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間の評価をしている高等部の各学年では、「Classi」のポートフォリオやアンケート機能を活用し、生徒の学習や学校生活の振り返りを行い、評価の観点の視点の共通化ができた。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部での観点別学習状況の評価の実施時には、中等部の実践を参考にしつつ、各教科で評価のために収集した様々な資料のウェイト付けを検討する必要がある。</li> <li>・評価・評定を算出するに際し、教員の誤入力に伴い成績の訂正をすることが数件生じたため、間違いなく入力することと、その読み合わせを徹底する。</li> <li>・得点が低いのにさほど悪くない評価がついたり、得点が高いのに思ったよりも低い評価がつくような試験では、試験や評価の信頼度に影響がでるため、適正な評価をするために平均点を意識した作問を心がける必要がある。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において行われなかった道徳や総合的な学習の時間の学習活動が今後行われた場合における評価項目や内容の修正など、既に作成した評価システムのブラッシュアップを行う。また、中等部3学年の評価システムを完成させる。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間の適切な評価を行うために、過年度の記述などの情報を学年間で交換・活用し、共通化を図りたい。</li> </ul>
<p>2022年度の取組目標</p>	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 観点別学習状況の評価の観点の付け方、評価のために収集した様々な資料のウェイト付けを、教科内で点検する。</li> <li>② 効率的かつ正確な評価・評定を出すために、校務システムを活用する。</li> </ol>

	<p>③定期試験の問題の適正化を図るために、国語、社会、数学、理科、英語では、定期テストの目標とする平均点を60±5点の達成を50%以上にする。</p> <p><b>【中等部】</b></p> <p>①特別な教科道徳や総合的な学習の時間の指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有する。</p> <p><b>【高等部】</b></p> <p>①総合的な探究の時間の指導要録の文章記述などを充実させるために、生徒の学習の振り返りを活用し、各学年で書き方や評価の視点などを共有するとともに、学年間で情報を交換する。</p>
--	--

## 3. 学習指導

3-①	<p>・学習指導要領や学則にのっとり、中等部・高等部全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が適切に行われているか。また、生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた指導が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に指導が改善されているか。</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①模擬試験等により生徒の学力の状況を把握し、学力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>②各種調査により生徒の学習の状況を把握し、学習習慣の定着のために生徒を指導するとともに、保護者と情報を共有するために、年間3回以上、二者面談・三者面談を実施する。</p> <p>③生徒の体力の状況を把握し、体力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>④生徒の英語の4技能の獲得状況を把握し、英語力を向上させるために、学校を会場とした英語検定試験を実施する。</p> <p>⑤各学期、授業評価を実施し、指導の工夫・改善に取り組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>①英語検定で、プログレスコースは、中等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、中等部2年次で3級以上（50%）、中等部3年次で準2級以上（80%）を目指して指導する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①英語検定で、プログレスコースは、高等部3年次で準2級以上（60%）を目指し、国際教養コースは、高等部3年次で2級以上（50%）を目指して指導する。</p>
【中等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
【高等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結果につながるのに時間はかかるが、模擬試験の成績に対する多くの教員の意識が高まり、多くの教科で模擬試験の結果を意識し、授業での工夫・改善がみられる。</li> <li>・学習習慣の定着のため、進路指導委員会主導のもと各担任が生徒に日々の学習記録を入力させ、その結果及び学習実態調査等の結果も踏まえて面談を行った。面談は全学年最低3回、更に学年の実態や個別の必要に応じて適宜実施できた。</li> <li>・年度開始後、新体力テストを実施し生徒が自己評価を行うことで苦手を把握させ、目標を持ち授業に臨ませることができた。</li> <li>・学校を会場にすることで生徒が受験しやすい環境を提供でき、各自の学年目標級到達にむけて積極的に取り組む姿勢が見られ、受験者数増加につながった。</li> <li>・各学期、生徒による授業評価を実施し、授業担当者の指導の工夫・改善に取り組んだ。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期講習で英検対策講座を行い、学年目標級を目指し意欲的に受験する生徒が</li> </ul>

	<p>増加した。国際教養コース2年次で3級以上は70%以上、準2級以上は27%である。3級以上の2次面接試験の合格率も約90%であった。</p> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現につながるなど英語検定受験の意義を伝えることで、英語検定受験者数は増加し、生徒たちの積極的な取組みが見られた。本年度、国際教養コース2年次では準1級に1名合格し、2級以上が33%、準2級が40%となった。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験の結果を意識して、授業の工夫・改善を行う必要がある。また、模擬試験に対する生徒の意識向上を促す必要もある。中等部では、模試のGTZをC、DからBへ向上させるボトムアップが必要である。高等部では、河合塾の全統模試で偏差値50以上の人数を増やしていく必要がある。</li> <li>・日々の学習記録の入力について、能動的な取組みとなるよう、学習記録入力の意義を生徒・保護者に理解させることが必要である。</li> <li>・新体力テスト項目の8観点において、バランスの良い運動技能が身に付くよう、授業でも多くの単元を取り入れるよう心掛ける。</li> <li>・英語検定の結果を分析することで、生徒の英語の4技能の獲得状況を把握し、授業・講習に取り入れる内容を明確にする必要がある。</li> <li>・授業評価の指標を見直し、教員の指導力改善に役立てる。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定3級以上の1次試験合格率を高める。英語検定に欠かせない語彙力を付け、試験問題形式に慣れる指導を行う。受験者数増加に伴い、2次試験(面接)の練習方法を工夫していく必要がある。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定一次試験の合格率が厳しい状況である。継続して生徒たちの語彙力を高め、英語の力を養う指導内容を検討する。</li> </ul>
【中等部】 資料	<p>【資料3-1】 使用教科書                      【資料3-2】 実用英語技能検定</p> <p>【資料3-3】 日本漢字能力検定            【資料3-4】 実用数学技能検定</p>
【高等部】 資料	<p>【資料3-1】 使用教科書                      【資料3-2】 実用英語技能検定</p> <p>【資料3-3】 日本漢字能力検定            【資料3-4】 実用数学技能検定</p>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 模擬試験等により生徒の学力の状況を把握し、学力向上のために生徒を指導するとともに、指導の工夫・改善に取り組む。</li> <li>② 各種調査により生徒の学習の状況を把握し、学習習慣の定着のために生徒を指導するとともに、保護者と情報を共有するために、年3回以上、二者面談・三者面談を実施する。</li> <li>③ 本年度も早い時期に新体力テストを行い、前年度との比較をさせ、個々に課題を持たせる。</li> <li>④ 生徒たちが英検を受ける意義を理解して、目標意識を高めていくために、英語科で年度初めに、英検についての説明会を設定する。</li> <li>⑤ 各学期、授業評価を実施するとともに、教員間で指導の工夫を共有し、改善に取り組む。</li> </ol> <p>【中等部】</p>

	<p>①英語検定では学年の目標級達成のため、中等部共通で「単語コンテスト」を実施し、語彙力を伸ばす指導を行う。</p> <p>【高等部】</p> <p>①英語検定対策として、英語の授業内で対策を取り入れ、生徒が継続的に学習を進められる環境づくりと指導を行う。</p>
--	---

3-②	<p>・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。</p>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。</p> <p>②外部講師を招いて英語集中研修、立居振舞講座、コミュニケーション講座等を実施する。</p> <p>③英語・国際理解教育プログラム（英語研修、Tokyo Global Gatewayでの英語体験等）で体験型学習を実施する。</p> <p>④「ESDプログラム」で参加型学習、体験型学習、課題解決学習を実施する。</p> <p>⑤キャリア教育プログラムで参加型学習、体験型学習を実施する。</p>
【中等部】 達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
【高等部】 達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部長（校長）が発行している「職員室だより」により、アクティブラーニング型の授業に取り組む場面が本年度も増加した。</li> <li>・ネイティブの教員による英語研修であることから、生徒たちは自発的な態度で臨むことができ、英語を使うことへの自信につなげていた。立居振舞講座は前年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、後期一度のみの実施に変更せざるを得なかった。しかし、三密（密集・密接・密閉）を避け、手指消毒を行ったうえで安全に実施することができ、「Classi」を使用したアンケートでは回答した生徒のうち98%が「役に立った」と回答した。</li> <li>・コミュニケーション講座は2回実施し、2回とも外部講師により実施した。エンカウンター講座は2回実施し、1回は外部講師により実施し、もう1回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、担任と外部講師と同じ資格を持つ教員により実施した。</li> <li>・生徒たちは日頃の授業で習得した英語の力を生かして、研修施設での演習プログラムに楽しみながら参加し、自己の英語の力を把握する機会となった。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ESDプログラム」のSDGs学習プログラムでは、中等部の各学年で年間4時間実施した。人権教育プログラムは中等部の全学年で各学期に1時間ずつ実施した。また、鎌倉プロジェクトでは、中等部1年生と中等部3年生は由比ガ浜海岸にてビーチコーミング、中等部2年生はJICA地球ひろばと鎌倉国宝館での体験</li> </ul>

	<p>学習を実施した。学芸員から説明を受け文化財の管理の体験等を行った。</p> <p><b>【高等部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ESDプログラム」の鎌倉プロジェクトでは、高等部1年生が5時間、高等部2年生では13時間、SDGs目標の達成のための活動を主体的、計画的に取り組み、活動の成果を分析しレポートを作成した。また、SDGs学習プログラムは、高等部1年生、2年生各4時間の参加型学習を実施した。ゲーム感覚でSDGsの各目標の実際を知り、それらの問題に対して今の自分たちにできることは何かという視点で問題解決学習を行った。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<p><b>【中・高共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニング型授業に取り組む場面を増やし、教員が指導する機会を増やす。</li> <li>・研修内容が各学年の学習到達度に合ったものとなるように、運営会社との打合せで十分確認を行い、生徒が主体的に参加できる実施プログラムを計画する。立居振舞講座などで外部講師が来校したり、生徒が校外で活動したりする場合は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行い、生徒が安心して参加できるような環境を整える。</li> <li>・外部講師が来校できない状況においても、担任などがコミュニケーション講座やエンカウンター講座を代講できるような作りが必要である。</li> <li>・個々の生徒が自分の英語の力にあったプログラムを体験できるよう、実施内容を吟味する。</li> <li>・「ESDプログラム」について、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりディスカッション等があまり活発に行えなかった。意見交換の方法についての新しい形態を考える必要性がある。また、「ESDプログラム」で学んだ内容を、日常場面で意識できているかどうかの確認と、より強く意識できるようなプログラム運営を各学年の教員や外部講師と検討する。</li> </ul>
<p>2022年度の 取組目標</p>	<p><b>【中・高共通】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教科等横断的な学習プログラムのなかで教員が実際にアクティブラーニング型の授業に取り組む。</li> <li>②研修後にリスニングの力や英語を使って表現する力（ライティング、スピーキング）を高め、模擬試験や英語検定の結果につなげていく。引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、年間2回、立居振舞講座が実施できるようにする。</li> <li>②コミュニケーション講座とエンカウンター講座については、1回目の講座に担任団に参加してもらい、運営方法や実施方法を研修してもらう。</li> <li>③研修で学んだ内容の学校の授業内における活用の方法を研究する。</li> <li>④「ESDプログラム」で参加型学習、体験型学習、課題解決学習を実施する。</li> </ol>

3-③	・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
2021年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着とともに、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業方法に取り組む。 ②授業中における「説明」「指示」「発問」「評価」の言語コミュニケーションスキルを向上させる。
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ・ラーニングコモンズやICTルームを活用し、授業の目的に応じて学習のかかわり方を強化した。 ・電子黒板とiPadの活用により、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へ転換が進んだ。 ・部長（校長）が発行した「職員室だより」をもとに、言語コミュニケーションスキルについて、各教員の指導性の向上が見られた。 ・公開授業期間中に部長（校長）が各教員の授業を見学し、レポートで改善点を指摘するなど、言語コミュニケーションスキルを向上させる取組みを行った。
今後の課題	【中・高共通】 ・生徒の学力向上を目指し、授業公開を行うことで授業力向上に取り組む。 ・授業者として必要な指導技術を各自が向上させる。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①「知識・技能」の定着と、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業方法に取り組む。 ②授業中の「説明」「指示」「発問」「評価」といった言語コミュニケーションスキルを向上させる。

3-④	<p>・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①補充的な学習として、プログレスコースの希望生徒は毎月開催される土曜講習に参加する。</p> <p>②発展的な学習として、国際教養コースの全生徒は毎月開催される土曜講習に参加する。</p> <p>③夏期講習や冬期講習では希望者に対して発展的な学習を実施する。</p> <p>④学力不振の生徒や希望した生徒に対して、適宜個別指導を実施したり、取り組むべき学習をアドバイスする。</p> <p>【中等部】</p> <p>①国際教養コースの生徒に対して、夏期講習や冬期講習で発展的な学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。</p>
【中等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
【高等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜講習を月に1回、国際教養コースの生徒は必修、プログレスコースの生徒は希望制として開催した。</li> <li>・夏期講習、冬期講習で、英語科は英検対策講座を開講するなど、各教科の講座を設定し、発展的な内容を取り扱った。</li> <li>・成績不振の生徒や授業の内容理解が十分でない生徒に対して、各教科担当で休日に補習を行うとともに、課題や個別質問対応を行った。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期講習と冬期講習を全員必修で開催し、習熟度授業などを交えて基礎から発展までの内容を指導した。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予備校主催の講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施した。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜講習の内容の工夫、充実を図る。</li> <li>・個別のフォローを各教科で、確実に取り組める体制を確立する。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜講習について、プログレスコースについても積極的な参加を促す。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜講習の時間を10分程度延長する。</li> </ul>
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①発展的な学習として、国際教養コースの全生徒は毎月開催される土曜講習に参加する。プログレスコースは希望生徒が参加する。</p>

	<p>③夏期講習と冬期講習を実施する。</p> <p>④学力不振の生徒や希望した生徒に対して、適宜個別指導を実施したり、取り組むべき学習をアドバイスする。</p> <p>【中等部】</p> <p>①夏期講習と冬期講習について、国際教養コース、プログレスコースいずれも必修とする。</p> <p>【高等部】</p> <p>①予備校主催の夏期講習を実施し、大学入試に向けた発展的な学習を実施する。</p>
--	--

3-⑤	・チーム・ティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に理科助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。</p> <p>②英会話の授業では、各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて、授業担当者がフォローに入るようにする。</p>
【中等部】 達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
【高等部】 達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、すべての実験・観察の時間に理科助手が補佐に加わり、実験・観察等安全に配慮した授業を行った。複数クラスの実験・観察の授業が同時間に実施された場合は、学齢を考慮し中等部を優先してチーム・ティーチングにあたった。</li> <li>・英会話の授業では、ネイティブの教員が中心に進めていく形を取りながらも、授業担当者が生徒の理解を把握し、時にはネイティブの教員に助言を与え、連携を取った授業展開をすることができた。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の態勢がうまく機能しており、引き続き現状を維持した取組みを行いたい。</li> <li>・チームティーチングで使用する教材について効果的な扱い方を教科会で研究する。</li> </ul>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①理科の実験・観察においては、安全を第一に教科担当の他に理科助手がつき、チーム・ティーチングで実験・観察指導にあたる。</p> <p>②他の英語の授業で学習した内容が、英会話の授業で実践的な練習となるよう、関連性を持たせていく方法を検討する。</p>

3-⑥	・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>① 担当学会で密に連絡を取り、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。</p> <p>② 動画コンテンツを精査し、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。</p> <p>③ 各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。</p> <p>④ 臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えるように検討する。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎となりICTルーム、情報処理室における情報機器の管理・運用に組織的に取り組んだ。</li> <li>・タブレット型端末のマルチメディア機能や電子黒板を活用することによって、画像や動画、音声等が感覚に訴え、興味・関心や意欲を高める授業が行えた。</li> <li>・電子黒板やタブレット型端末を利用することで、抽象的な概念や思考の過程などを可視化し、理解の促進につなげることができた。</li> <li>・臨時休業に備えて、タブレット型端末にアプリの準備をした。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、担当学会で情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。</li> <li>・動画コンテンツの精査を行い、より良いものがないか検討していく。</li> <li>・全教員がICT機器を効果的に活用ができるように検討していく。</li> <li>・今後も、臨時休業に備えて検討していく。</li> </ul>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>① 担当学会で密に連絡を取り、情報教育の推進と情報機器の管理・運用に組織的に取り組む。</p> <p>② 動画コンテンツを精査し、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策に取り組む。</p> <p>③ 各教員のICT活用指導力の向上のために、電子黒板やタブレット型端末等のICT機器の効果的な活用を推進する。</p> <p>④ 臨時休業に備えて、全教員がオンライン授業を行える体制を整えるように検討する。</p>

3-⑦	・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。			
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①図書館移転により、授業利用などに支障のないよう図書館運営を行う。</p> <p>②生徒が読書や調べものに利用しやすい図書館にするため、PR活動をする。</p> <p>【中等部】</p> <p>①図書館に興味を持たせ、利用を増やす。</p> <p>②国語以外の教科の利用を働きかける。</p> <p>【高等部】</p> <p>①新1年生に図書館ガイダンスを行い、図書館利用の習慣を付けさせる。</p> <p>②積極的に活用してもらうため、各学年に提供できるサービスを具体的に示す。</p>			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館移転後、授業利用などに対応した。</li> <li>・生徒のiPadに図書館OPACを入れてもらい、生徒が必要に応じて各自で図書館の蔵書を検索できるようにした。また、分類ごとの蔵書案内や新着新書案内、新着本案内など機会があるたびにクラス掲示や、図書館掲示などした。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部1年生にオリエンテーションやガイダンスを行った。図書館蔵書案内のクラス掲示、新着本案内の掲示を行った。</li> <li>・国語だけでなく、理科や英語などの教科で利用があった。図書館で授業は行わないが、関係する資料を教員が教室へ借りて行ったり、ブックトラックで貸出したりした。中等部1年生は3学期に2回、学年全体で図書館で読書を行った。好評だった。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新1年生に図書館ガイダンスを行った。ガイダンスの際、1人1冊実際に新書を手にしてもらい、新書の構造や目次・索引・奥付など、資料の利用の方法を教えた。図書館が教室に近くなったため、利用者の数は増加した。本を借りなくても図書館で時間を過ごすという利用のされ方もしている。</li> <li>・高等部2年生に前年度できなかったガイダンスを行った。新1年生と同様に、新書を手にしてもらい、利用・活用の方法を教えた。また、レポートなどに活用できる「参考資料の書き方」を1・2年生に説明した。高等部3年生には、「本の紹介スピーチ」のやり方についてのプレゼンを行った。新聞の天声人語や社説のコピーなどを高等部の担任に毎日配布した。</li> </ul>			
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移転後で、書架の資料の配架に不備がある。書架の高さが足りず寝かせている資料などの整備をする。所蔵場所も以前と違うため、所蔵データの変更をする。</li> <li>・図書館からの掲示物など、クラスに掲示してもらえないものがあるため、担任に協力をお願いすると共に、他の伝達手段を考える。</li> </ul>			

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の図書館に比べて授業用の机が少ないため、2授業を同時にすることができなくなった。図書館が利用できない方には、ブックトラックで関係資料を大量に貸し出すなどの対応をするが、事前の相談が必要である。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館に来る習慣を付けさせ、利用を増やす。</li> <li>・授業利用に対するサポートを行う。ブックトラックで貸し出すなど。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用の常連ができつつあるため、それ以外の利用者を増やす。</li> <li>・積極的に活用してもらうため、教科担当などに提供できるサービスを具体的に示す。</li> </ul>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図書館資料の整備とデータ再構築を行う。</li> <li>②新1年生にオリエンテーション、図書館ガイダンスを行う。</li> </ol> <p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①図書館に興味を持たせ、利用を増やす。</li> <li>②授業利用に対する資料活用のサポート。</li> </ol> <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①常連以外の生徒を図書館利用へ導く。</li> <li>②生徒に対する図書館利用のサポート、図書館資料活用のサポートを行う。</li> </ol>

3-⑧	・学校行事、委員会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。			
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校行事や委員会活動を校友会担当者が適切に指導するために、ICTを活用して組織的な課題解決に取り組む。</li> <li>②生徒の実践力の向上を目的に、リーダーを中心とした組織的な連携を構築し、学校行事や委員会指導に計画的に取り組む。</li> <li>③学校行事、委員会活動等においては生徒の安全を優先し、新型コロナウイルス感染症予防と体調管理の徹底、危機管理に継続して努める。</li> </ol>			
【中等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭やみどり祭（文化祭）の準備、委員会活動において、担当教諭間や生徒委員どうしの連絡、データのやり取りについて、これまで以上にICTの活用ができた。</li> <li>・コロナ禍で活動が制限される中、委員長を中心に可能な活動を精査し、計画的に活動することができた。</li> <li>・県の指導に基づき、学校の実情に合った独自の対策が実践されている。校内での手指消毒やマスクの着用、換気などは徹底されており、体育祭やみどり祭</li> </ul>			

	(文化祭)では状況に応じた入校制限など、十分な新型コロナウイルス感染症対策が実施された。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後に十分な時間が確保できない状況に大きな変化はないが、行事や委員会活動を効率化するためのICT活用は進んでいる。今後もICTのより良い活用方法を探求するとともに、既存のやり方に縛られない柔軟な対応が必要となる。</li> <li>・ICTの活用によって準備や連絡が効率よく進められるようになりつつある。生徒のアイデアや積極的な姿勢を更に引き出し、形としてより強く反映できる活動につなげられるとよい。</li> <li>・校内の安全対策、新型コロナウイルス感染症予防対策は順調に進んでいるが、対策を重視し過ぎて消極的な活動とならないように、状況に応じた適切な判断が必要である。</li> </ul>
【中等部】資料	【資料3-5】学校行事      【資料3-6】表彰      【資料3-7】委員会
【高等部】資料	【資料3-5】学校行事      【資料3-6】表彰      【資料3-7】委員会
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学校行事や委員会活動におけるICT活用を進め、作業や情報交換の組織化と効率化を図る。</li> <li>②生徒の実践力の向上を目的に、リーダーを中心とした組織的な連携を構築し、生徒の力による学校行事や委員会活動の実践を進める。</li> <li>③学校行事、委員会活動等においては生徒の安全と成長を重視し、新型コロナウイルス感染症予防と体調管理の徹底、危機管理に継続して努める。</li> </ol>

3-⑨	・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制及び教職員全体の協力体制の下に実施されているか。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①現状に合わせた「事故防止のための安全対策」の改訂を行い、種目の特性に合った事故の予防、発生時の対策を適正にまとめる。</li> <li>②計画的な活動に向けて「部活動の在り方に関する方針」に則り、各部で部活動方針を作成し、活動の時間、場所、内容、安全管理等の適切な管理を行う。</li> <li>③部活動を教育活動の一環と捉え、生徒の思考力・実践力の育成に取り組む。</li> <li>④安全で充実した部活動の運用のために、顧問以外の教職員も状況に応じて指導に協力する。</li> </ol>
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の	【中・高共通】

理由 (目標に対する取組内容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに「事故防止のための安全対策」の確認と見直しを行った。加えて「校友会に関する来校者の対応について」「校友会 校外活動における貴重品の管理について」等を作成し、世の中の変化や状況に応じた対策を実施した。</li> <li>・年度初めに「部活動方針」の確認と見直しを行った。また緊急事態宣言発令前に「緊急事態宣言下の部活動について」を作成し生徒の安全管理を徹底した。</li> <li>・各部顧問やコーチの監督のもと、適切に指導が行われた。</li> <li>・諸会議や休日出勤の振替等で顧問の教員が不在の場合には、近くで活動する部の顧問が安全管理を行っている。校舎移転に伴い活動場所の変更があったが、混乱なく移行できている。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も状況の変化に合わせて、安全や新型コロナウイルス感染症への対策を速やかに発行する。</li> <li>・部活動方針の確認と見直しを継続するとともに、社会情勢に伴う新しい対応についても適正かつ速やかに対応する。</li> <li>・各部顧問の適正な指導により、今後も生徒の心身の成長を支える。</li> <li>・本館側の施設を使用する際の安全対策や顧問不在時の対応について、十分な検討が必要である。</li> </ul>
【中等部】 資料	<p>【資料3-8】 校友会（部活動）入部者数 【資料3-9】 校友会（部活動）部別所属人数 【資料3-10】 校友会（部活動）活動結果</p>
【高等部】 資料	<p>【資料3-8】 校友会（部活動）入部者数 【資料3-9】 校友会（部活動）部別所属人数 【資料3-10】 校友会（部活動）活動結果</p>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「事故防止のための安全対策」をもとに、種目の特性に合った事故の予防、発生時の対策を適正にまとめる。</li> <li>②計画的な活動に向けて「部活動の在り方に関する方針」に則り、各部で部活動方針を作成し、活動の時間、場所、内容、安全等の適切な管理を行う。</li> <li>③部活動を教育活動の一環と捉え、生徒の思考力・実践力の育成に取り組む。</li> <li>④安全で充実した部活動の運用のために、顧問不在の場面でも役割を適切に補完できる体制を整える。</li> </ol>

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。</li> <li>・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。また、小中連携、中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①併設校相互の連携を図るために、定期的に三部長会を開催する。</li> <li>②併設校の連携を図るために、みどり祭（文化祭）を同日に開催する。</li> <li>③中・高等部の教育活動を初等部の保護者・児童に知っていただくために、初等</li> </ol>

	<p>部を対象とした学校説明会を開催する。</p> <p>④中・高等部の生徒が幼稚部生や初等部生と交流できる機会（職業体験、授業での交流など）を設ける。</p> <p>⑤中高連携を目指し、校友会の部活動や委員会活動、みどり祭（文化祭）や体育祭などの各種行事、講話等は中・高等部合同で実施する。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ毎月、三部長会を開催することができた。岩瀬キャンパス再整備に関連して施設管理部長も参加し、連携を図ることができた。</li> <li>・みどり祭（文化祭）の同日開催は達成できたが、新型コロナウイルス感染症対策のもと縮小開催となり、幼稚部や初等部との連携企画は実施できなかった。</li> <li>・初等部には、中等部の学校説明会に参加してもらえよう、募集要項とポスターを配布。個別相談では内部進学に向けての対応を直接保護者に説明する。また多くの初等部生が受ける公開模試を本校で実施し、生徒が受験している時間を使って、保護者会を行う。</li> <li>・中等部2年生の技術・家庭の授業でクラスごとに幼稚部を訪問し、幼児とのふれあい体験実習を実施することができた。</li> <li>・コロナ禍の制約下にあっても思いどおりの活動ができたとは言いがたいが、部活動や委員会活動、学校行事等において、可能な限りの中高連携活動が実施できた。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩瀬キャンパスの再整備や新型コロナウイルス感染症対策などに関する併設校相互の情報共有は、ますます重要になってくる。</li> <li>・状況を的確に見極め、新校舎を活用した安心安全な幼稚部・初等部との連携企画を検討する。</li> <li>・多くの初等部生に学校説明会に参加してもらう。</li> <li>・中等部2年生の技術・家庭の授業で安心安全な幼児とのふれあい体験実習を実施する。</li> <li>・前年度はコロナ禍で中止していた初等部生を対象を絞った保護者会や校内見学を実施し、中等部に対してより深い理解と信頼を得る活動を行う。</li> <li>・中等部生が主体的にリーダーシップを発揮できる場を設定する。</li> </ul>
【中等部】 資料	【資料3-11】 併設校との連携
【高等部】 資料	【資料3-11】 併設校との連携
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①併設校相互の連携を図るために定期的に三部長会を開催する。</li> <li>②併設校の連携を図るために、みどり祭（文化祭）を同日に開催し、園児・児童も楽しめる催し物を企画する。</li> <li>③中・高等部の教育活動を初等部の保護者・児童に知ってもらうために、初等部</li> </ol>

	<p>を対象とした学校説明会を開催する。</p> <p>④中・高等部の生徒が幼稚部生や初等部生と交流できる機会（職業体験、授業での交流など）を設ける。</p> <p>⑤中高連携を目指し、校友会の部活動や委員会活動、みどり祭（文化祭）や体育祭などの各種行事、講話等は中・高等部合同で実施する。</p>
--	---

3-⑪	・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①大学の各種実習（教育実習、教職実践演習フィールドワーク、心理実習等）に協力し、円滑な実施のために大学と連携する。</p> <p>②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し送りを通して円滑な接続を図る。</p>
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由（目標に対する取組内容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習や心理実習は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めつつ円滑に実施することができた。</li> <li>・コロナ禍にあつて、みどり祭（文化祭）は来場者を限定した縮小開催となったため、大学学友会との連携企画は実施できなかった。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携講座は、23名が参加し、大学との連携を図り、実施できた。本学進学者31名（併願確約制度利用者以外）が2月の高大連携集中講座に参加した。また、前年度同様、コロナ禍の中、資料による本学進学者の申し送りを行った。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、円滑に各種実習が実施できるよう大学と連携する。</li> <li>・企画を出し合うだけでなく、進路相談や情報交換、交流試合など、大学生と中・高等部生が直接触れ合う企画を検討する。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携講座について、新高等部3年生の新しいカリキュラムにより、授業に参加できるのは水曜日と金曜日の5講時となるため、大学と連携を図り、生徒が授業選択できるようにする。</li> </ul>
【中等部】	【資料3-11】併設校との連携

資料	
【高等部】 資料	【資料3-11】併設校との連携
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①大学の各種実習（教育実習、教職実践演習フィールドワーク、心理実習等）に協力し、円滑な実施のために大学と連携する。</p> <p>②みどり祭（文化祭）において大学の学友会と中等部・高等部の校友会との連携を図る。</p> <p>【高等部】</p> <p>①鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座や進学決定者の申し込みを通して円滑な接続を図る。</p>

## 4. キャリア教育（進路指導）

4-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部・高等部全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。</li> <li>・ 生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。</li> <li>・ また、職場体験や就業体験が適切に実施されているか。</li> </ul>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① キャリア教育を組織的に推進するために、キャリア教育担当者会において、キャリア教育プログラムの作成・運営・改善や情報収集に取り組む。</li> <li>② キャリア教育の一環として、コミュニケーションプログラムの授業を準備し、授業者を支援する。</li> <li>③ キャリア講演会を計画・運営し、講演会後の生徒アンケートでは、「講演会を通じて学ぶことがあったか」という質問で肯定的な回答65%を目指す。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① キャリア教育の一環として、職業体験を実施する。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、代替の活動を検討する。</li> </ul>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育プログラムの作成に当たって、生徒の意識調査を行い、そのデータを反映したプログラム策定し、新たにキャリアガイダンスを実施した。キャリア意識については、中等部2、3年生で有意な上昇がみられた。</li> <li>・ コミュニケーションプログラムの授業案（発話原稿付き）を作成し、実施する担任の支援をすることができた。</li> <li>・ キャリア講演会は、コロナ禍により実施を見合わせた。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業体験は、コロナ禍により受け入れ可能な施設が無かったため、キャリア教育担当者会議で検討し、株式会社マイナビによる職業適性診断と結果の読み方、進路選択時の留意点などの講演を実施した。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等部の進路ガイダンスと、キャリアガイダンスの違いを明確化する。</li> <li>・ キャリア意識の向上だけでなく、学びの有効性に関する意識の向上に資するガイダンス内容を検討する。</li> <li>・ コロナ禍であっても実施可能なキャリア講演会の開催方法を検討する。</li> <li>・ 中等部1年生に対するキャリアガイダンスの振り返り結果を分析し、より実効性のある内容を検討する。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業体験については、受け入れ可能な施設を探す一方で、オンラインによる職業体験を検討する。</li> </ul>

【中等部】 資料	【資料4-1】 進路指導・キャリア教育
【高等部】 資料	【資料4-1】 進路指導・キャリア教育
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①高等部の進路ガイダンスとキャリアガイダンスの違いを明確化する。</p> <p>②キャリア意識の向上だけでなく、学びの有効性に関する意識の向上に資するガイダンスの内容を検討する。</p> <p>③コロナ禍であっても実施可能なキャリア講演会の開催方法を研究、検討する。</p> <p>④中等部1年生に対するキャリアガイダンスの振り返り結果を分析し、より実効性のある内容を専門家の助言も受けながら研究、検討する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①職業体験については、受け入れ可能な施設を探す一方で、オンラインによる職業体験を検討する。</p>

4-②	・生徒一人ひとりの理解を深めるために必要な資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているとともに、進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。また、キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①「Classi」での生徒カルテ、学習時間等の活用と共に、模擬試験分析会を学期に2回行い、教員が模擬試験の分析結果を、生徒との進路相談に活用していく。</p> <p>②生徒の目標設定、学習意欲向上、学習方法の周知などのために、進路指導計画をもとに各学年と連携して、進路ガイダンス、学習ガイダンスを実施する。</p> <p>③効果的な進路相談を行うために、進路指導室を整備し、大学受験情報等必要な資料を用意する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①生徒の大学進学への意識を高めるために、1年次に大学見学ツアー、校外大学合同説明会、1・2年次に校内大学合同説明会を実施する。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <p>・「Classi」での学習時間の入力ができるようになり、生徒の学習実態を調査できるようになった。模擬試験成績分析会を6回実施し、模擬試験に対する教員・生徒の意識が高まり、進路相談に生かすことができた。</p> <p>・進路ガイダンスでは毎回ほぼ80%以上の生徒から役に立ったという評価を得ている。また、進路指導室が新校舎で新しくなり、開放することが可能となり、活用する機会が増えている。</p> <p>【高等部】</p> <p>・校内大学合同説明会、校外大学合同説明会が実施でき、受験に対する生徒の意</p>

	識が向上した。
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間の入力ができるようになったが、学習時間の目標を達成できない生徒が多く、学習習慣の定着ができていない生徒が多い。</li> <li>・模擬試験成績分析会では、成績分析だけではなく、他にも生徒の学力向上につながる内容を取り上げ、教員が授業や面談などで活用できるよう改善する。</li> <li>・進路ガイダンス等の振り返りを学年、担任と共有し、生徒が受験や学習に対する意識を高く持てるようにする。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間を生徒と担任が意識し、学習習慣を定着させたい。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内大学合同説明会、校外大学合同説明会等で生徒の大学受験に対する意識を向上させたい。</li> </ul>
【中等部】 資料	【資料4-2】 模擬試験      【資料4-3】 卒業生進学先
【高等部】 資料	<p>【資料4-2】 模擬試験      【資料4-3】 大学合格先</p> <p>【資料4-4】 大学合格者受験方法      【資料4-5】 短期大学合格先</p> <p>【資料4-6】 短期大学合格者受験方法      【資料4-7】 併設大学進学者数</p> <p>【資料4-8】 卒業生進学先</p>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ベネッセの「Classi」の学習時間の活用で生徒の学習習慣の定着を図り、模擬試験分析会を活用し、教員の学習に対する意識を高め、生徒への指導につなげていく。</li> <li>②進路ガイダンス、学習ガイダンスを工夫し、各学年での進路に関する集会などの開催を活発化させていく。</li> </ol> <p>【中等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①中等部3年生が高等部進学に向けて学習に熱心に取り組むための仕掛けを作る。</li> </ol> <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>②オープンキャンパスなどに参加が難しい状況ではあるが、生徒の大学受験に対する意識向上のため、校内大学合同説明会の刷新するなど、工夫していく。</li> </ol>

## 5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部・高等部全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。</li> <li>・ 自主的・自律的に行動でき、豊かな人間関係を構築でき、社会の一員としての意識を身に付けた生徒を育成するための指導を行っているか。</li> </ul>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 計画的な生徒指導を行うために、生徒指導計画を作成する。また、「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。</li> <li>② 各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。また、各学年で迅速で、足並みをそろえた対応が必要な場合には、生徒指導関連の連絡・共有事項を「Classi」を用いて伝達する。</li> <li>③ 計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために、「心の教育プラン」を実施する。</li> <li>④ 自己内省を促すために、修養の鐘の指導等を計画・実施する。</li> <li>⑤ 感性を育てるために、芸術鑑賞教室を計画・実施する。</li> <li>⑥ 社会性を育てるために、日直・週番活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。</li> <li>⑦ 「学校いじめ防止基本方針」を見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。</li> </ul>
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新年度開始までに「生徒指導ハンドブック」を作成、発行した。生徒指導計画を明記した。</li> <li>・ 職員会議で各学年の生徒状況報告を行った。マナー指導等、共通認識が必要な内容を「Classi」で伝達することができた。</li> <li>・ 「心の教育プラン」を策定したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「入学坐禅」「合唱コンクール」の行事を中止した。</li> <li>・ 修養の鐘についてはオリエンテーションで意義と方法を説明し、率先垂範で指導を行った。</li> <li>・ 芸術鑑賞教室は、中等部・高等部で時間をずらして実施するなど、新型コロナウイルス感染症対策を行い実施した。「Classi」を使用したアンケートで回答した生徒のうち、約98%が「良かった」と回答した。</li> <li>・ 日直活動は全学年で担任が指導した。週番活動は全教員の輪番制で指導に当たった。礼儀・挨拶指導は、各学級で指導し、朝の挨拶指導を生徒指導委員会が中心となり実施した。立居振舞講座は年2回の予定を変更し、1回のみの実施となったが、新型コロナウイルス感染症対策を行い、実施することができた。</li> <li>・ 「学校いじめ防止基本方針」は変更を要する点はなかった。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生徒指導ハンドブック」の読み合わせの機会を設け、情報共有を十分に行う。</li> <li>・ 「Classi」の情報はタイムライン式なため、情報が埋まっていく傾向</li> </ul>

	<p>がある。教員間で新着情報の共有を密にし、情報を見落とさないようにする。また、共有した情報の取扱いに十分注意を払う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度中止となった行事は、感染状況に応じ、中止を視野に入れつつも最大限の新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施する方向で検討する。</li> <li>・修養の鐘の指導は生徒間では受動的なものとなりやすいため、日常的に意義を確認する指導が必要である。入学坐禅は次年度も中止とする。</li> <li>・芸術鑑賞教室、全校コーラスは、新型コロナウイルス感染症流行状況に応じ中止も視野に入れつつも、最大限の感染症対策をとりながら実施する方向で検討する。</li> <li>・日直活動の指導は各クラスで温度差が生じないように、学年団で情報を共有し均一化を図る。立居振舞講座は新校舎での実施となるため、施設の特性に注意を払いながら新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施する。</li> <li>・「学校いじめ防止基本方針」の読み合わせをする機会を作り、十分な情報共有をする。</li> </ul>
【中等部】 資料	【資料5-1】生徒指導計画
【高等部】 資料	【資料5-1】生徒指導計画
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①計画的な生徒指導を行うために生徒指導計画を作成する。また「生徒指導ハンドブック」を編集・発行する。</li> <li>②各教職員が生徒の状況を共有するために、職員会議で各学年の生徒状況を報告する。各学年で迅速、足並みをそろえた対応が必要な場合は、生徒指導関連の連絡・共有を「Classi」を用いて行う。</li> <li>③計画的・組織的に豊かな人間性の育成に取り組むために「心の教育プラン」を実施する。</li> <li>④自己内省を促すために、修養の鐘の指導等を計画・実施する。</li> <li>⑤感性を育てるために、芸術鑑賞教室を計画・実施する。</li> <li>⑥社会性を育てるために、日直活動の指導、礼儀・挨拶の指導、立居振舞講座を計画・実施する。</li> <li>⑦「学校いじめ防止基本方針」を毎年度見直し、全教職員でいじめ防止に取り組む。</li> </ol>

5-②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているとともに、スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。</li> </ul>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育相談委員会を定期開催する。情報共有の範囲についても適切に定める。</li> <li>②二者面談や三者面談を実施する際に、教育相談委員会で面談実施案を提供する。また、面談後の情報は、教育相談委員会で共有する。</li> <li>③学年の状況に適したピア・サポート・プログラムと構成的グループ・エンカウンターを実施する。</li> </ol>

	<p>【高等部】</p> <p>①教職員がキャリア・カウンセリングの技法や知識を獲得できるようにするために、情報提供を行う。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各月、年間8回、教育相談委員会を実施した。情報共有の範囲については、明確にしきれなかった部分があった。</li> <li>・学校生活アンケートの結果をもとに、二者面談実施について提案を行った。面談に関する情報共有は、委員会まで待たずに各学年と情報共有を行った。</li> <li>・学年より生徒の状況を聞き、状況に対応するエクササイズを提供した。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育学会等からキャリア・カウンセリングに関する情報を収集し、適宜教員に情報提供を行った。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談委員会を定期開催する。情報共有の範囲について適切に定める。</li> <li>・学校生活アンケートをもとにした二者面談の実施案を、各学年に提供する。</li> <li>・道徳の時間等以外に、SHR（ショートホームルーム）でも実施可能なエンカウンタープログラムを提供する。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア・カウンセリングに関する紙上演習などを職員会議などを通じて情報発信する。</li> </ul>
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教育相談委員会を生徒指導委員会に抱合しつつ、定期開催する。情報共有の範囲について適切に定める。</li> <li>②学校生活アンケートをもとに、二者面談の実施について各学年に提案を行う。面談の内容、結果については、教育相談委員会で情報を共有する。</li> <li>③道徳の時間等以外に、SHR（ショートホームルーム）でも実施可能なエンカウンタープログラムを提供する。</li> </ol> <p>【高等部】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①キャリア・カウンセリングに関する、紙上演習などを職員会議などを通じて情報発信する。</li> </ol>

## 6. 保健管理

【中・高等部】 6-①	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2021年度の 取組目標	【中・高共通】 ①生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ②日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ・薬物乱用防止については、保健の授業で主に指導を行った。 ・各クラス、朝のSHR（ショートホームルーム）で健康管理表を使用した健康観察（体温確認など）を実施した。
今後の課題	【中・高共通】 ・新型コロナウイルス感染症対策として行っている健康管理表の記入をいつまで行うか、検討する必要がある。
【中等部】 資料	【資料6-1】 学校保健計画      【資料6-2】 保健室利用件数 【資料6-3】 保健室学年別利用件数      【資料6-4】 保健室月別利用件数
【高等部】 資料	【資料6-1】 学校保健計画      【資料6-2】 保健室利用件数 【資料6-3】 保健室学年別利用件数      【資料6-4】 保健室月別利用件数
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ②日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取り組み、健康診断を適切に実施する。

【保健センター】 6-①	・法定の学校保健計画が作成され、生徒の保健管理、保健教育が適切に実施されているか。
2021年度の 取組目標	【中等部】 ①緊急時に各々の役割分担を明確にし、行動できるようにするため、1学期に職員の緊急時対応研修を計画する。 ②う歯・歯肉炎の予防と治療への動機づけのため、1年次2学期に歯科集団指導を行う。その際、1学期に行う保健講話の内容に関連付け、理解を深める。 ③保健講話の内容をより充実させるため、令和2（2020）年度の講話の振り返りをもとに保健師、学年主任と内容の見直し、追加を検討する。

	<p><b>【高等部】</b></p> <p>①学校保健計画を作成し、保健管理・保健教育を適切に実施する。また、保健行事が円滑に行えるよう努める。</p> <p>②高等部3年生の保健講話及び高等部1年生のオリエンテーションは継続して行っていく。また、健康診断や毎月発行する保健だよりを通じて、感染症対策の定期的な確認（緩みの防止）や季節に応じた心身の管理についての指導を行っていく。</p> <p>③担任・カウンセラーと日常的に情報交換を行い、必用時は連携を取って対応に当たれるよう努める。</p> <p>④「学校の新しい生活様式」を遵守し、健康で安心な学校生活がおくれるように努める。</p> <p>⑤新校舎移転後、環境管理が適切に行われるよう努める。</p>
<p><b>【中等部】 達成状況</b></p>	<p>A：十分達成      <b>B：概ね達成</b>      C：やや未達成      D：未達成</p>
<p><b>【高等部】 達成状況</b></p>	<p>A：十分達成      <b>B：概ね達成</b>      C：やや未達成      D：未達成</p>
<p><b>達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）</b></p>	<p><b>【中等部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時に各々の役割分担を明確にし、行動できるようにアクションカードを作成し、各学級の出席名簿と職員室に設置した。職員の実技研修については新型コロナウイルス感染症の流行状況を考慮し、見送った。</li> <li>・12月に1年生の歯科集団指導を実施した。映像教材を使用し、1学期の保健講話も振り返りながら思春期歯肉炎の予防と対策を重点的に指導した。夏休み明けには1年の歯科受診率が75%に向上した。</li> <li>・中等部3年次に行う保健講話の前年度の内容、事後アンケート、現中等部3年生の学級の様子をもとに打ち合わせを行い、本年度の講話内容と使用教材を決定した。より自己肯定感を高められるよう本年度は助産師も招き、産まれるときの「生きる力」についても伝えた。</li> </ul> <p><b>【高等部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画を作成し、保健管理・保健教育を適切に実施することができた。また、保健行事を円滑に行うことができた。</li> <li>・高等部3年生への保健講話及び新入生オリエンテーションを行い、健康管理に関する意識付けを深めることができた。</li> <li>・担任・カウンセラーと日常的に情報交換を行い、連携を取って対応に当たることができた。</li> <li>・主に保健だよりを通じて感染症対策の定期的な確認を行った。黙食指導の徹底を図る等、健康で安心な学校生活が送れるよう努めることができた。</li> <li>・新校舎移転後の環境管理を適切に行うことができた。</li> </ul>
<p><b>今後の課題</b></p>	<p><b>【中・高共通】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策について、継続しているからこそできることと、緩んでしまうことがある。引き継ぎ生徒への指導を行っていくことと並行して、保護者の理解・協力を求めていく必要がある。</li> <li>・子宮頸がん予防接種が勧奨接種なった。小学校6年生～高校1年生相当の女子が対象であり、特に高等部1年生は無料接種対象最終年齢となるため、子宮がんに</li> </ul>

	ついでに保健教育を行う必要がある。
【中等部】 資料	【資料6-1】 学校保健計画 【資料6-3】 保健室学年別利用件数
【高等部】 資料	【資料6-2】 保健室利用件数 【資料6-4】 保健室月別利用件数
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①オリエンテーションや保健だよりを通じて、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を呼び掛けや、予防接種についての情報発信をする。</p> <p>②新校舎になり、初めての健康診断となる。主に移動の動線や健康診断会場の設定が適切であるか振り返りをしっかり行い、次年度に繋げていく。</p> <p>③相談件数が増加している。カウンセラーと連携を取り、必要時は速やかに相談室に繋がられるようにする。</p> <p>④職員対象の緊急時対応講習会を実施し、非常時の連携についての確認を行い、適切な対応が行えるようにする。</p>

## 7. 安全管理

7-①	<p>・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているとともに、学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。また、校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に運用する。</p> <p>②「防災・防犯マニュアル」の防犯対策部分について更新し、教職員及び全校生徒で共有し、適切に運用する。</p> <p>③校内安全点検をについて、1学期は例年どおりの内容で実施し、2、3学期は新校舎への移転に合わせて、点検場所、内容を新たに構築して、年間3回実施する。</p> <p>④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を適切に運用する。</p> <p>⑤避難訓練の運営協力及び防災教育指導を行う。</p>
【中等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
【高等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校安全計画を作成し、「生徒指導ハンドブック」に掲載することで、計画を教職員に共有、適切に運用することができた。新校舎移転に伴い、必要な部分を改めて運用した。</li> <li>・「防災・防犯マニュアル」を作成し、教職員及び全校生徒に発行し、適切に運用した。</li> <li>・年間3回、各学期に校内安全点検を実施した。新校舎開設に合わせて、点検場所、内容を構築して実施することができた。</li> <li>・登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を1学期始業式から適切に運用した。</li> <li>・避難訓練は旧校舎で1回実施、新校舎では雨天により避難は実施できなかったが、備蓄配付訓練を実施した。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>①「生徒指導ハンドブック」の読み合わせをする機会を設け、学校安全計画について情報共有を十分に行う。</p> <p>②「防災・防犯マニュアル」の防犯対策の部分は、時代に即したものに修正する。</p> <p>③新校舎移転後、雨天で校外への避難が実施できなかったため、令和4（2022）年度の早い時期に避難訓練を実施する。</p> <p>④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）のスムーズな運用開始のため、業者と密接な連携をとる。</p> <p>⑤新校舎での避難経路の確認を令和4（2022）年度の早いうちに実施し、課題を確認する。</p>

【中等部】 資料	【資料7-1】学校安全計画      【資料7-2】危機管理マニュアル
【高等部】 資料	【資料7-1】学校安全計画      【資料7-2】危機管理マニュアル
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校安全計画を作成し、教職員で共有し、適切に運用する。</p> <p>②「防災・防犯マニュアル」の防犯対策部分について更新し、教職員及び全校生徒で共有し、適切に運用する。</p> <p>③各学期1回、年間3回の校内安全点検を実施する。</p> <p>④登下校メールシステム・一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）を適切に運用する。</p> <p>⑤防災訓練の運営及び防災教育指導を行う。</p>

7-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に移転後も引き続き防災訓練を実施する。</p> <p>②岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を1回、中・高等部独自の方再訓練を1回実施し、防災訓練内で消火器取扱い訓練も行った。新型コロナウイルス感染症対策として、訓練の際に消防署の立ち合いを行わない方針が鎌倉市から出されていたため、2回とも立会いのない自主訓練の形式で実施した。</li> <li>・中・高新校舎移転後は、消防署からの指示により新校舎として防災管理を単独で行い防火管理者を選出することとなった。法人と相談した結果、中・高等部長が防火管理者の任に当たることになった。</li> <li>・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行し、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する基本行動や心構えの周知を行うことができた。</li> <li>・防災訓練後の備蓄食料配付訓練等を通じて、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。</li> <li>・岩瀬キャンパス全体で防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を実施し、行政機関への報告を行った。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な場面を想定し、併設校各部や総務部、施設管理部、管轄消防署等と相談</li> </ul>

	<p>を行いながら、有事に対応できるような活動を今後も継続する。</p> <p>・令和3（2020）年度9月に中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に移転したが、岩瀬キャンパス全体として、幼稚部や初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていきたい。</p>
【中等部】 資料	【資料7-3】避難訓練実施日
【高等部】 資料	【資料7-3】避難訓練実施日
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①有事における安全確保のための基本行動を周知させるため、中・高等部校舎単独で引き続き防災訓練を実施する。</p> <p>②岩瀬キャンパス全体での防火対象物点検・防災管理点検（法定点検）を継続して実施し、行政機関への報告を行う。</p>

## 8. 組織運営

8-①	・部長（校長）など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るよう努める。</p> <p>②管理職は各主任等を適切に指導・支援し、新しい教育活動や学校運営を実現する。</p> <p>③学校マネジメントについての教職員の知識やスキルを向上させ、学校マネジメントを推進する。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部長（校長）は教職員との面接や授業参観を複数回実施し、一人ひとりの教員とコミュニケーションをとるよう努めた。さらに、教職員に向けた「職員室だより」を年間に50号以上発行した。</li> <li>・主任等に対して、業務内容と権限を明確にし、グループリーダーとしての役割とマネージャーとしての役割について徹底したため、教育活動や学校運営において、より組織的に取り組めるようになってきた。</li> <li>・学校マネジメントの計画として、学校教育と学校運営の10の重点取組をそれぞれまとめ、その下に実施計画や学習プログラムを作成した。それに基づき実行した。その後、評価・改善に取り組み、学校全体のPDCAマネジメントサイクルを構築することができた。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員と管理職とが更に情報交換や相談などをしやすくするために、新校舎では部長室に会議用テーブルを配置する。</li> <li>・運営会議や学力向上委員会などを通して、各主任に学校の10の重点取組分野を理解させる。</li> <li>・学校マネジメントに関する、教職員全体の知識やスキルの向上を図る。</li> </ul>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①風通しの良い職場を作るために、管理職は全教職員と適切なコミュニケーションを取るよう努める。</p> <p>②組織的・計画的な教育活動や学校運営を実現するために、管理職は各主任等を適切に指導・支援する。</p> <p>③学校マネジメントを推進するために、マネジメントに関する教職員の知識やスキルを向上させる。</p>

8-②	・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているとともに、職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。			
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①校内組織の活性化のために、校務分掌や学年の主任等をミドルリーダーとして位置付けた校内組織を運用する。</p> <p>②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。</p> <p>③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。</p>			
【中等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各組織ごとに校務分担一覧を作成したことにより、各主任等が自分の組織の業務内容を細かく把握できるようになり、グループリーダーとしての意識や責任感を持って、グループの運営に取り組むようになった。</li> <li>・運営会議に参加できない組織からも提案ができるように、担当窓口制度を設定したことで、各組織での計画や取り組みについて検討することができた。</li> <li>・職員会議の前の時間に何度か模擬試験の検討会が入ってしまったために、十分な時間がとれない日があったが、結果的には効率的な職員会議を実施することができた。</li> </ul>			
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌や学年の主任等をミドルリーダーとして位置付けた校内組織の運用を徹底する。</li> <li>・校務委員会の主任は学校運営の基幹教員として、相互によく話し合い、理解し合う機会を持つ必要がある。</li> <li>・職員会議の効率化を図るためには、今よりも議題を早めに教職員に提示することで、各自が検討する時間を確保する必要がある。</li> </ul>			
【中等部】資料	<p>【資料8-1】 運営組織図</p> <p>【資料8-3】 教科主任・教科担当</p> <p>【資料8-5】 校務委員会と担当者会</p>	<p>【資料8-2】 各分掌の所管事項</p> <p>【資料8-4】 学年所属</p> <p>【資料8-6】 特別委員会</p>		
【高等部】資料	<p>【資料8-1】 運営組織図</p> <p>【資料8-3】 教科主任・教科担当</p> <p>【資料8-5】 校務委員会と担当者会</p>	<p>【資料8-2】 各分掌の所管事項</p> <p>【資料8-4】 学年所属</p> <p>【資料8-6】 特別委員会</p>		
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①校内組織の活性化のために、校務分掌や学年の主任等をミドルリーダーとして位置付けた校内組織を運用する。</p> <p>②学校経営方針の周知徹底、学校運営の改善、情報の共有のために、管理職、校務委員会の各主任、提案者が出席する運営会議を毎月開催する。</p> <p>③学校の教育方針、教育目標、教育計画、教育課題への対応等に関する教員間の</p>			

	意思疎通、共通理解の促進、教職員の意見交換のために、全教職員が出席する職員会議を毎月開催する。
--	---

8-③	・各種文書や個人情報などの中等部・高等部が保有する情報が適切に管理されるとともに、情報の取り扱い方針が教職員に周知されているか。
2021年度の取組目標	【中・高共通】 ①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から提出してもらう。 ②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実にを行う。
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ・新入生には入学手続き時に個人情報の取り扱いについての同意書を配布し、全員の保護者から提出された。また、ホームページや学校案内に生徒の写真が掲載される場合には、広報委員会から別途、生徒・保護者の同意を得る、本人が特定されないようにするなどの配慮を行った。 ・生徒氏名・住所・成績等の個人情報の一切は、教務委員会で一元管理しているだけでなく、個人所有の情報機器の使用禁止並びにデジタルデータの持ち出しを禁止することで個人情報の流出に努めた。また、学校備付表簿は、学校教育法施行規則第28条により定められた保存期間を遵守し、保存期間が過ぎたものは適切な方法で廃棄している。
今後の課題	【中・高共通】 ・各種文書や個人情報などの中・高等部が保有する情報の取り扱いについてだけでなく、教職員が使用しているiPad等のICT機器の取り扱いについても、新しく着任した教職員に周知徹底する。 ・紙媒体の個人情報だけでなく、デジタル媒体における個人情報の破棄についても適性、確実にを行う。
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①学校運営上必要な氏名、住所、電話番号、写真等の使用については保護者の理解に努め、必ずその使用についての同意書を全員から提出してもらう。 ②個人情報の保管や不要なものの廃棄を適正、確実にを行う。

## 9. 研修（資質向上の取組）

9-①	・全教員による授業研究会を行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に中等部・高等部全体で取り組んでいるか。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①研究研修プランを策定し、全教職員で授業研究の方針を共有する。</p> <p>②教科の授業力を向上させるために、教科会を授業研究の場とし、効果的な授業方法・教材等を共有する。</p> <p>③指導技術を学び合うために、相互に授業を参観する公開授業週間を開催する。</p> <p>④大学入試に対応する指導方法を学ぶために、外部講師を招請した模擬試験分析会を実施する。</p>
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究研修プランをもとに、生徒の学力向上に向けた授業研究の方針を共有した。</li> <li>・教科会において、教材や授業方法等の情報共有や研修に取り組んだ。</li> <li>・公開授業週間を設定し、教員が相互に授業参観を行った。言語コミュニケーションスキルや、表情や身振りなどの非言語コミュニケーションスキルなどの指導技術を視点として授業参観を行った。</li> <li>・ベネッセコーポレーション講師3回、河合塾講師3回の模擬試験分析会を実施した。中等部の学力推移調査の分析会では基礎力、学習時間の大切さ、高等部の全統模試の分析会でも基礎力、志望校の高めの設定、学習量等を教員間で共有した。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究に取り組むための方針の共有、組織的な取り組みが必要である。</li> <li>・どの教科にも応用できる指導技術を共有するためには、様々な教科の授業を参観できるようにする。</li> <li>・成績向上は難しく結果がすぐに出ないため、模擬試験の成績分析のみでは同じ結果を繰り返す可能性がある。</li> </ul>
【中等部】資料	【資料9-1】授業研究（授業公開）
【高等部】資料	【資料9-1】授業研究（授業公開）
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①研究研修プランで授業研究の方針を共有する。</p> <p>②教科会を授業研究の場とし、効果的な授業方法・教材等を共有する。</p> <p>③指導技術を学び合うために、相互に授業を参観する公開授業週間を開催する。</p> <p>④模擬試験の成績分析と共に、教員が生徒に教科や担任としてアドバイスできる、最新の受験情報や学習方法の他校の事例などを増やし、分析会がより役に立つようにしたい。</p>

9-②	・校内研修・校外研修の課題が適切に設定され、実施されているとともに、教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
2021年度の取組目標	【中・高共通】 ①学習、生徒指導・理解、健康・安全を主なテーマにして、計画的に校内研修を実施する。 ②研修担当者は、校外の研修会の案内や研修に関する情報を適宜教職員に広報する。
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ・学習に関する研修では、予備校関係者による模擬試験分析会を模擬試験ごとに行ってきた。 ・校外の研修会については、「Classi」を通じて全教職員に情報提供を行った。
今後の課題	【中・高共通】 ・生徒指導・理解に関するテーマの研修を校内で実施する。 ・校外の研修会情報の共有方法を工夫をする。また、校外の研修会について教職員の参加状況の把握方法をより簡便にする。
【中等部】資料	【資料9-2】研修
【高等部】資料	【資料9-2】研修
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①健康・安全に関する「エピペン講習会」「心肺蘇生法講習会」を実施する。 ②生徒指導・理解に関する研修会を実施する時間を確保し、企画する。

9-③	・部長（校長）等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員の指導の状況を的確に把握するとともに、教員に対して適切な指導・助言をしているか。また、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
2021年度の取組目標	【中・高共通】 ①管理職は授業公開週間を中心に全教員の授業を参観し、評価を行い、授業改善のためのアドバイスを行う。 ②管理職は授業力向上のために計画的に研修資料の提示や指導を行う。 ③管理職は人材育成や不祥事防止のために、全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。

【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回、公開授業週間を設定し、教員が相互に授業参観を行った。どの教科にも共通する授業中における「説明」「指示」「発問」「助言」の言語コミュニケーションスキルや表情や身振りなどの非言語コミュニケーションスキルなどの指導技術を視点として授業参観を行うことにしたため、他の教科の授業を参観しやすくなった。</li> <li>・研究研修プランに基づき授業研究の方針を共有することができた。また、部長(校長)が「職員室だより」を発行し、その中で指導力向上のための取組みについて何度も紹介した。</li> <li>・部長(校長)が「職員室だより」で、情報セキュリティについての研修資料を紹介した。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識・技能」の定着と「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した授業研究に取り組むための方針の共有が必要である。</li> <li>・効果的に授業力を向上するためには、組織的な取組みが必要である。</li> <li>・どの教科にも応用できる指導技術を共有するために、様々な教科の授業を参観できるようにする。</li> <li>・内容によっては、外部講師を招くことを検討する。</li> </ul>
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①教員の授業力向上のために、管理職は授業公開週間を中心に全教員の授業を参観し、授業改善のアドバイスを行う。</li> <li>②教員の指導力向上のために、管理職は計画的に研修資料の提示や指導を行う。</li> <li>③不祥事防止のために、管理職は全教職員に向けて指導や注意喚起を行う。</li> </ol>

## 10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	・保護者が中等部・高等部に協力できる体制（教育ボランティア等）を整えているか。
2021年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるよう、丁寧な広報活動を行う。 ②保護者との連携・協働の窓口が次長であることを明確にするために、校務分掌に位置付ける。
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	【中・高共通】 ・例年、体育祭、みどり祭（文化祭）、立居振舞講座で保護者有志による参加を募っているが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、保護者の参加を中止とした。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う保護者の入学式・卒業式・みどり祭（文化祭）などの参加人数の制限、当日、入場時の手指消毒や体温チェックなどの協力を得られるように広報に努めた。 ・校務分担一覧に保護者との連携・協働の担当者として次長を明記し、保護者との窓口を明確にしている。
今後の課題	【中・高共通】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う保護者の行事参加について、今後も保護者に協力を得られるように十分な広報をしていく必要がある。
2022年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者が学校行事や生徒の活動に協力できるよう、丁寧な広報活動を行う。

10-②	・学校公開を定期的実施しているか。
2021年度の取組目標	【中・高共通】 ①保護者に授業中の様子を知ってもらうために授業参観を実施し、参観者人数を100名以上にする。 ②生徒の活動の様子や成果を発表する場として、状況に合った適正な範囲で体育祭・合唱コンクール・みどり祭（文化祭）の3行事を保護者に公開する。 ③保護者へ学習の機会を提供するために、校内で立居振舞講座等を開催する。
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の	【中・高共通】

理由 (目標に対する取組内容と成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍ではあるが、予定どおり実施できた。また、参観者数についても217名参加し、参加者数を100名以上にすることができた。</li> <li>・コロナ禍で体育祭は無観客での実施、合唱コンクールは中止となった。みどり祭(文化祭)では入場制限はあったものの、保護者に公開することができた。</li> <li>・立居振舞講座については、実施の可否判断をできるかぎり遅らせたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度も実施できなかった。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観について、生徒や来校する保護者の十分な新型コロナウイルス感染症対策を取りながら実施していく必要がある。</li> <li>・体育祭・合唱コンクール・みどり祭(文化祭)について、今後も引き続き新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら状況を的確に見極め、行事の開催と公開に関して可能な範囲を適切に判断する。</li> <li>・立居振舞講座等について、新型コロナウイルス感染症の状況を伺いながら、実施を判断する必要がある。</li> </ul>
【中等部】資料	【資料10-1】学校公開      【資料10-2】保護者講座
【高等部】資料	【資料10-1】学校公開      【資料10-2】保護者講座
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者に授業中の様子を知ってもらうために授業参観を実施し、参観者人数を100名以上にする。</li> <li>②生徒の活動の様子や成果を発表する場として、状況に合った適正な範囲で体育祭・合唱コンクール・みどり祭(文化祭)の3行事を保護者に公開する。</li> <li>③令和4(2022)年度は新型コロナウイルス感染症拡大状況の先行きが不透明であること、クラス数の増加で時間の割り振りが難しいことから、保護者対象の立居振舞講座は実施しない。</li> </ol>

10-③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者の中等部・高等部への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。また、教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。</li> </ul>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、日常のコミュニケーションを大事にするとともに、保護者会、校友会保護者会、三者面談を実施する。</li> <li>②生徒の悩み・要望・満足度などを把握し、生徒の学校生活がより良いものになるように、アンケート・二者面談を実施する。</li> <li>③個々の教育相談に適切に対応するために、教育相談委員会を月例で実施、学年、スクールカウンセラー、保健室と連携して組織的、計画的に活動する。</li> <li>④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を1学期中に実施する。</li> </ol>

【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任から保護者への連絡を密に行い、積極的にコミュニケーションを取るようにした。保護者会は各学年2回実施した。三者面談は全員に対して年2回、必要な生徒には年3回、各学期末に実施した。校友会保護者会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からほとんどの部活動で実施しなかった。</li> <li>・学校生活アンケートを各学期末の年3回実施し、その内容や分析結果をもとに二者面談を実施した。</li> <li>・年8回教育相談委員会を実施し、学年内の生徒情報を共有するとともに、課題解決の提案を行った。</li> <li>・中等部1年生及び高等部1年生全員の面談を実施した。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者会は必要に応じて懇談会のような内容を盛り込み、保護者間の情報共有を進める。三者面談は必要に応じて、教員と保護者の二者で行う場面を設けることも検討する。</li> <li>・学校生活アンケートが学期末実施で対応が長期休暇後になるため、実施時期について検討する。またアンケート結果をスクールカウンセラー、養護教諭とも共有する。</li> <li>・教育相談委員会を生徒指導委員会に抱合することを検討する。</li> <li>・スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談について、入学後、早い時期に実施できるようにする。</li> </ul>
【中等部】 資料	【資料10-3】 保護者会・面談
【高等部】 資料	【資料10-3】 保護者会・面談
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保護者の教育活動についての満足度や要望を把握するために、保護者との連絡を密に行う。また、保護者会、三者面談、校友会保護者会を適宜実施する。</li> <li>②生徒の悩み・要望・満足度などを把握し、生徒の学校生活がより良いものになるよう、アンケートを実施し、その内容に応じて二者面談を行う。</li> <li>③教育相談委員会を月例で実施することで、各学年の課題を学年、スクールカウンセラー、保健室で共有、連携して組織的、計画的に活動する。</li> <li>④教育相談への生徒の理解を深めるために、スクールカウンセラーによる中等部1年生、高等部1年生への全員面談を1学期中に実施する。</li> </ol>

10-④	・学校便りや学級便りの発行など、保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
------	---

2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）のそれぞれの媒体の特性を生かした学校広報活動に取り組む。</p> <p>②保護者が学校の様子や行事の実施についての理解を深めることができるよう、保護者会や各種説明会等を中等部1年生～高等部2年生では年3回、高等部3年生では年2回開催する。</p> <p>③生徒の活躍を伝えるために、優秀な成績をあげた部活動等については、懸垂幕の掲示を行う。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 （目標に対 する取組内 容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）の定期的発行、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）の有効活用で、学校広報活動に取り組んだ。</li> <li>・保護者会予定日が緊急事態宣言あるいはまん延防止等重点措置の期間中であったため、中等部1年生～高等部2年生では年初の1回、高等部3年生では年2回の開催に留まった。</li> <li>・新校舎移転前は例年どおり本館に横断幕の掲示ができていた。移転後は新たに懸垂幕を新調する必要が生じたが、サイズの確認がとれず掲示できなかった。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の伝達・公開において、学校ホームページの併用も検討する。</li> <li>・保護者会中止の場合、また実施された場合にも欠席した保護者に対して、伝達すべき内容が適切な時期に、的確に伝わるようにすること。</li> <li>・新校舎体育館壁面の懸垂幕サイズを確認し、適正な価格と納期で発注できるよう業者を選定する。</li> </ul>
【中等部】 資料	【資料10-4】保護者への情報発信
【高等部】 資料	【資料10-4】保護者への情報発信
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①保護者と学校との友好的な協力関係を築くために、印刷広報物（学園だより、学年だより、各種案内等）、web（学校ホームページ、一斉メール配信システム（HAYABUSAメール）、Classi）を併用した学校広報活動に取り組む。</p> <p>②保護者に学校の様子や行事の実施についての理解を深めるため、保護者会や各種説明会等を中等部1年生～高等部2年生では年3回、高等部3年生では年2回開催する。また、保護者会の内容について情報共有を図るため、印刷物や「Classi」を効果的に活用する。</p> <p>③生徒の活躍を伝えるために、優秀な成績をあげた部活動等については、懸垂幕の掲示を行う。</p>

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①地域のNPOや行政と協働して、地域の自然、文化財、SDGsの取組みについて連携する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①「ESDプログラム」の一環として、中等部1年生は鎌倉の自然保護、中等部2年生は文化財保護、中等部3年生は鎌倉の課題をテーマに学習する。</p> <p>②「ESDプログラム」の一環として、中等部2年生は本郷台にある県立地球市民かながわぶらざで体験学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①「ESDプログラム」の一環として、行政と連携して、鎌倉の観光の課題を解決するための方策を考える課題解決学習を実施する。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <p>・本年度は、鎌倉市役所や鎌倉ユネスコ協会の協力を得て、鎌倉の自然、文化財、観光、SDGsについての学習について連携することができた。</p> <p>【中等部】</p> <p>・1・3年生は由比ヶ浜海岸でのビーチコーミングを通して、海の豊かさや環境について学習した。2年生は県立地球市民かながわぶらざでの体験学習、鎌倉国宝館で文化財を取り扱う体験を行った。</p> <p>【高等部】</p> <p>・1年生の3学期から、鎌倉の観光をテーマに課題解決学習に取り組んだ。鎌倉市観光課の方を招聘し、鎌倉市の観光資源である自然、歴史、伝統行事や観光の課題について聞く機会を持った。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・地域のNPOや行政との連携を深め、地域をテーマにした学習を深める。</p> <p>【中等部】</p> <p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮して体験学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>・1年生の3学期から始まった鎌倉の観光をテーマに課題解決学習は、2年生になっても継続して取り組み、鎌倉市の自然や文化財保護などを含む観光の課題についての学習を続ける。</p>
【中等部】 資料	【資料10-5】 地域との連携・交流
【高等部】	【資料10-5】 地域との連携・交流

資料	
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①地域のNPOや行政と、地域の自然、文化財、SDGsの取組みについて連携する。</p> <p>【中等部】</p> <p>①「ESDプログラム」の一環として、1年生は鎌倉の自然保護、2年生は文化財保護、3年生は鎌倉の課題をテーマに学習する。</p> <p>②「ESDプログラム」の一環として、2年生は本郷台にある県立地球市民かながわふらぎで体験学習を実施する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①「ESDプログラム」の一環として、行政と連携して、鎌倉の観光の課題を解決するための方策を考える課題解決学習を実施する。</p>

## 11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<p>・ 中等部・高等部の教育活動について、説明会の実施、学校案内の配布、ホームページの活用など、多様な媒体を用いてわかりやすく、かつ適切な分量で提供されているか。また、生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。</p>
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】 ①学校説明会の来校者数を確実に増やしていくための告知方法と説明会の内容について改善を図る。</p> <p>【中等部】 ①学校説明会への来校者数と志願者数の増加を目指す。</p> <p>【高等部】 ①専願者、推薦者の人数増を目指し、入学者数につなげる。</p>
【中等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
【高等部】達成状況	<p>A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成</p>
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍で説明会への集客人数制限や塾訪問件数減少という要素があったが、新校舎効果もあり、中・高等部いずれも入学者数増加を達成した。</li> <li>・ 大手塾への営業を積極的に行うことで、従来の個別指導塾からの集客に加え、集団指導塾からの受験者数を増やした。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 適性検査型入試対策を行う塾をターゲットとして、受験料・特待生制度をアピールし、入学者数が60名以上になり、10年以上前の入学者数に戻った。</li> <li>・ 塾巡回のエリアを県西・県央に拡大した結果、前年度と比べて広範囲からの志願者が増加した。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明会に参加した生徒・保護者に対し、きめ細かな対応を実施した。その結果入学者数を平成28（2016）年度から倍増させることに成功した。</li> <li>・ STEP、臨海セミナーの湘南地区への訪問を強化した結果、藤沢・茅ヶ崎からの志願者が増加した。</li> <li>・ 12月以降の個別相談への対応をした結果、オープン入試の受験者が10名と、過去3年間で最も多かった。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新校舎をきっかけに、大学受験に向けてしっかりサポートしていく2コースの魅力と、入試制度の情報を的確に伝えられるよう、校内外のイベントの回数を増やす。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初等部からの入学者を増やすことで、入学者数の安定を図る。</li> <li>・ 適性検査型の受験者は増えたが、入学者の歩留まりが低い。次年度は特待生制度の認知度を高め、公立志向の生徒・保護者に中等部の魅力を伝え、歩留まり率を高める。</li> </ul>

	<p>・日能研・臨海セミナーという大手からの入学者を増やせるよう、エリアを広げて営業活動を行う。</p> <p>【高等部】</p> <p>・併願の歩留まり率が20%と低いため、推薦・専願の受験生を増やす。</p> <p>・高等部の受験生は説明会に1回しか来ないため、説明会の内容を充実させる。</p> <p>・50校を超える個人塾から志願者がみられるため、今まで営業に足を運んでいなかった個人塾にも募集活動を行う。</p> <p>・内申が取りにくい横浜国大付属生に丁寧に対応することで、オープン入試の数を増やす。</p>
【中等部】 資料	<p>【資料11-1】 学校説明会等参加者数</p> <p>【資料11-2】 学校説明会等参加者数・出願者数</p> <p>【資料11-3】 進学相談会面談者数      【資料11-4】 塾対象学校説明会参加塾数</p> <p>【資料11-5】 学外での募集活動      【資料11-6】 学校案内送付数</p> <p>【資料11-7】 塾訪問      【資料11-8】 ホームページアクセス数</p>
【高等部】 資料	<p>【資料11-1】 学校説明会等参加者数</p> <p>【資料11-2】 学校説明会等参加者数・出願者数</p> <p>【資料11-3】 進学相談会面談者数      【資料11-4】 塾対象学校説明会参加塾数</p> <p>【資料11-5】 学外での募集活動      【資料11-6】 学校案内送付数</p> <p>【資料11-7】 塾訪問      【資料11-8】 ホームページアクセス数</p>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学校ホームページに映像や魅力的な情報を載せ、他校との差別化を図る。</p> <p>②塾に加え、公立小・中学校へ配布される新聞媒体への広告を増やす。</p> <p>③新校舎の魅力伝えるため、校舎見学や塾主催模試会場としての利用を積極的に行い、認知度を高める。</p> <p>【中等部】</p> <p>①受験生・保護者対象の説明会に複数回参加してもらい、本校の教育内容等の理解を深められるよう、学校説明会の中身に変化をつける。</p> <p>②塾訪問のエリアを横浜西部・県央地区に広げ、多くの受験生・保護者に本校の情報を提供する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①受験生・保護者に本校の教育内容等を理解してもらうため、多くの外部イベントに参加し、学校説明会への誘導を行う。</p> <p>②公立中学校を通して多くの受験生・保護者に本校の情報を提供するために、中学校訪問のエリアを拡大する。</p>

11-②	<p>・入学試験を公正かつ適切に行っているとともに、入学定員及び収容定員に沿って在籍生徒を適切に確保しているか。</p>
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①中学校訪問と塾訪問を継続して実施する。</p> <p>②入試問題を適切に作問するために入試作問委員会が中心となり、計画的に取り</p>

	<p>組む。</p> <p>【中等部】</p> <p>①私立上位校併願者や公立中高一貫校受験者の通う塾を計画的に訪問するための方策を作り実行する。</p> <p>【高等部】</p> <p>①志願者数増加を目指すために、中学校訪問を継続する。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者を決め、中学校訪問と塾訪問のエリアを前年度より拡大して実施した。</li> <li>・入試問題を適切に作問するための計画を立て、月1回入試作問委員会を行い、8月末には中等部・高等部の入試問題を校了とすることができた。また、適性検査型試験では、神奈川県と中高一貫校の選択問題とし、受験生が受験しやすい工夫をすることができた。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SAPIX・日能研・四谷大塚の私立中受験の三大塾はもちろんのこと、中高一貫校対策を実施している臨海セミナー・中萬学院に焦点をあてて塾訪問を実施した。その結果、臨海セミナーから多く受験生を獲得できた。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・STEP・臨海セミナー・湘南ゼミナールの公立受験の三大塾はもちろんのこと、東京個別指導学院や栄光ゼミナールといった個別指導の大手にも丁寧に営業かけた。その結果、STEPや東京個別指導学院から多くの受験生を送ってもらった。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の説明会参加者の通う塾を洗い出し、生徒を送ってくれた塾には遠方でも営業をかける。</li> <li>・中等部の各回ごとの入試問題の難易度を統一することや、採点速度を上げるために出題の方法を工夫する。</li> </ul> <p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで見向きもされなかった日能研、四谷大塚から生徒を送ってくれるようになった。日能研主催の説明会や広告に力を入れ、四谷大塚には本校で模試を実施してもらう。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知名度を向上させるため、前年度2回行った全県模試の会場貸し出しを2倍に増加させ、校舎の魅力を伝える。</li> </ul>
【中等部】 資料	<p>【資料11-9】 2022年度入試      【資料11-10】 入試状況</p> <p>【資料11-11】 入学試験関連スケジュール</p>
【高等部】 資料	<p>【資料11-9】 2022年度入学試験      【資料11-10】 入試状況</p> <p>【資料11-11】 入学試験関連スケジュール</p>
2022年度の取組目標	【中・高共通】

	<p>①相鉄線の延長にともない、東京への私学も行きやすくなることから、通学エリアの拡大を見込み営業エリアを広げる。</p> <p>②採点効率を上げられるような作問の工夫を行う。</p> <p>【中等部】</p> <p>①コロナ禍でも対面での説明会を実施できるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底的に行い、学校内外で説明会の実施数を増やし、新コースと新校舎をアピールする。</p> <p>【高等部】</p> <p>①説明会への参加数が1回程度の高等部は、学校の魅力が1時間で伝わる工夫をする。</p>
--	---

11-③	・中等部・高等部の募集力向上における支援が適切に行われているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①引き続き中・高等部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。</p> <p>②募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等での入学希望者対応の充実を行う。</p>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本年度はみどり祭（文化祭）等の公開行事は未公開で行われた。行事の様子は中・高等部のホームページで受験生に紹介され、広報の一つとして扱われている。学校説明会については新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を取りながらこれまで同様に実施され、毎回来校者の案内等運営補助を行っている。</li> <li>・各種問い合わせに関する電話や窓口対応については、丁寧な対応を心掛け、中・高等部の好感度を上げる様尽力した。</li> <li>・募集要項については、受験希望者にとって内容が分かりやすくなる様なレイアウトや表現を取り入れ工夫した。</li> </ul> <p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務の合理化と新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策として、前年度より入学試験の出願方法をこれまでの窓口受付から郵送受付のみに変更した。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・併設校広報の中心である初等・中等教育統括部長や中・高等部管理者との連携を密にし、中・高等部の募集活動の支援充実に努める。</li> </ul>
2022年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き中・高等部の募集業務補佐と、支援の更なる充実を行う。</li> <li>・募集人員充足に向け、説明会や公開行事等の運営支援や、電話・受付窓口等で</li> </ul>

	の入学希望者対応の充実を行う。
--	-----------------

## 12. 教育環境整備

12-①	・多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。</p> <p>②各教室に設置された電子黒板や、生徒全員が持っているタブレット端末等の機器を活用した授業を行う。</p> <p>③新校舎のラーニングコモンズ、マルチメディアラウンジ等の有効活用を推進するために、新校舎運営員会で組織的に取り組む。</p>
【中等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の理由 （目標に対する取組内容と成果）	<p>【中・高共通】</p> <p>・理科の授業では、化学室と生物室では実験・観察を中心に、物理・地学室では、机の配置を生かした座学など、各実験室を有効に活用することができた。また、音楽、美術・工芸室、書道室では、教室を有効活用し授業を行うことができた。家庭科の授業では、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服室）においても、活用して授業を行うことができた。特に中等部生の授業は制作実習がなくても家庭科室（被服室）で実施し、グループワークなどに活用できた。</p> <p>・各授業において有効に活用することができた。</p> <p>・国語科では、アクティブラーニングの活動で「ビブリオバトル」や「ポスターセッション」などに利用した。オーストラリア姉妹校Brigidine Collegeとのオンライン交流に利用した。LHR・総合学習の時間等で「SDGsプログラム」「人権学習プログラム」の活動の時に、グループワークの会場として利用した。</p>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <p>・理科の授業について、新実験室では施設・設備に不備はないが、実験器具類の経年劣化による安全性に留意し、必要に応じて更新していく。また、音楽、美術・工芸室、書道室においても各教室の施設・設備に不備はないが、オープンスペースの有効活用について、模索する。</p> <p>・教員用のタブレット端末の経年劣化が見られるため、更新していく。</p> <p>・ラーニングコモンズの活用方法について模索する。</p>
【中等部】資料	【資料12-1】施設・設備
【高等部】資料	【資料12-1】施設・設備
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。</p>

	<p>②各教室に設置された電子黒板や生徒全員が持っているタブレット端末等の機器を活用した授業を行う。</p> <p>③ラーニングcommons等の有効活用を推進するため、新校舎運営員会で組織的に取り組む。</p>
--	--

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
2021年度の 取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。</li> <li>・業者委託業務による計画的な環境整備。</li> <li>・創立80周年記念事業として中等部・高等部新築工事を計画、工期どおりの竣工、開校（2021年9月）。環境に配慮し備品・家具の再利用を行う。</li> </ul>
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。</li> <li>・職員の日常作業の他、消防設備、清掃業務、樹木管理、プールの保守点検など業者への委託による環境整備・安全確保等も行った。</li> <li>・創立80周年記念事業における中等部・高等部新築工事及び本館改修工事において、工事エリアを仮囲いで区画し、生徒の安全を確保した。</li> <li>・施設設備環境の向上、更なる安全確保を計るため、中等部・高等部新築工事を行った。</li> <li>・中等部・高等部新校舎において、生徒や建物の安全確保のため、機械警備、出入室管理システム、監視カメラ等のセキュリティシステムを導入した。</li> <li>・備品、家具の調査を実施し、既存家具を活用した家具計画を行った。</li> <li>・校舎周りの既存樹木を保全し、更に多くの樹木を新植し緑豊かな環境に配慮した整備を行った。</li> <li>・引越作業は夏季休暇期間に生徒の立入りを制限し、安全を確保し行った。</li> <li>・中等部・高等部新校舎に関する建物管理業務を業者へ委託し、より快適な環境整備を行った。</li> <li>・総合グラウンドにおいて、草除去、不陸調整、土入れ替えのグラウンド整備を行った。</li> <li>・プール棟において、プール保守点検の他、良好な維持管理のため、プール昇温用膨張タンク更新工事、オーバーフロー環水槽フロートスイッチ交換工事、シャワー用貯湯槽配管修繕を行った。</li> <li>・松本講堂において、舞台照明ピンスポットライト修繕、舞台照明操作卓バッテリー交換作業を行った。</li> <li>・台風等災害被害の安全対策工事として、プール棟北側イチョウ並木高木剪定、松本講堂空調冷温水器周辺の高木剪定、東館受水槽周辺の高木剪定、北側門扉周辺の高木剪定を行った。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東館トイレ污水管の老朽化更新工事を行った。</li> <li>・衛生管理の強化のため、生徒が担当していたトイレ清掃を業者委託とした。</li> <li>・空調設備など設備機器の経年劣化による不具合への対応を行った。</li> </ul>
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。</li> <li>・委託業務の内容などが実情に合わせたものになるよう計画する。</li> </ul>
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備の安全確保、機能維持のため、日常点検・巡回の実施。</li> <li>・業者委託業務による計画的な環境整備。</li> </ul>

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。			
2021年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①学習指導要領の改訂に伴い、必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。</p> <p>②オンライン授業、タブレット・パソコン・電子黒板などを利用する授業などをほぼすべての教員が実施できるように、技術を共有できる環境づくりを行う。</p>			
【中等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
【高等部】達成状況	A：十分達成	B：概ね達成	C：やや未達成	D：未達成
達成状況の理由 (目標に対する取組内容と成果)	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年にタブレット型端末が整備され、様々な教育活動の場で活用された。</li> <li>・電子黒板やタブレット端末を活用した授業を展開できた。</li> </ul>			
今後の課題	<p>【中・高共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。</li> <li>・技術を共有する場を増やし、全教員が活用できるようにしたい。</li> </ul>			
【中等部】資料	【資料12-2】図書室蔵書数・視聴覚資料数	【資料12-3】図書閲覧室等		
	【資料12-4】図書室利用			
【高等部】資料	【資料12-2】図書室蔵書数・視聴覚資料数	【資料12-3】図書閲覧室等		
	【資料12-4】図書室利用			
2022年度の取組目標	<p>【中・高共通】</p> <p>①必要となる教材・教具・図書を計画的に整備する。</p> <p>②タブレット・パソコン・電子黒板などを利用する授業などをほぼすべての教員が実施できるように、技術を共有できる環境づくりを行う。</p>			

## 13. 事務支援体制

13-①	・ 中・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
2021年度の 取組目標	【中・高共通】 ① 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。 ② 中・高等部校舎の移転に伴う業務を円滑に行う。 ③ 校納金の収納等会計処理を適正に実施する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対 する取組内 容と成果)	【中・高共通】 ・ 窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・ 業者支払いの勘定伝票や預り金についての新たな帳票を、引き続き初等・中等教育支援室で作成し、事務処理の合理化・厳格化を一層進めることができた。校友会費処理についても、経理部と連携をとり改善を行った。 ・ 校納金の収納について、これまで保護者の引落とし口座の金融機関により引落日が異なり月に2日引落日が設定されていたが、前年度よりすべての金融機関で月1日に統一し業務の合理化を行った。高等学校等就学支援金や学費軽減補助金、生徒学費緊急支援補助金事務と共に順調に遂行されている。 ・ 預り金管理業務についても、各学年の担当者と連携し適正に行われている。 ・ 新入生の制服採寸において、新型コロナウイルス感染防止のため三密（密集・密接・密閉）を避けるべく、人数を時間ごとに制限しながら実施するなどの対応を図り、問題なく行うことができた。
今後の課題	【中・高共通】 ・ 今後も窓口や電話での対応に関して、適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・ 本年度夏より中・高等部校舎が南グラウンド敷地内に移転したが、支障なくこれまでどおり事務支援の円滑な実施ができるよう尽力したい。
【中等部】 資料	【資料13-1】 授業料等校納金      【資料13-2】 生徒一人当たり年間納付金 【資料13-3】 学費軽減制度
【高等部】 資料	【資料13-1】 授業料等校納金      【資料13-2】 生徒一人当たり年間納付金 【資料13-3】 学費軽減制度
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ・ 日常業務における事務支援体制全体の強化を引き続き図る。 ・ 中・高等部校舎の移転に伴う業務を引き続き円滑に行う。 ・ 校納金の収納等会計処理を適正に実施する。

## 14. 自己点検・評価

14-①	・自己点検・評価が年に1回以上定期的に、全教職員が関与し、組織的に実施されているか。また、自己点検・評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
2021年度の 取組目標	【中・高共通】 ①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を中心に組織的・計画的に取り組む。 ②自己点検・評価の結果を学校の重点取組分野の活動に反映させるために、すべての校務委員会、担当者会は評価指標と目標を適切に設定する。
【中等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
【高等部】 達成状況	A：十分達成      B：概ね達成      C：やや未達成      D：未達成
達成状況の 理由 (目標に対する取組内容と成果)	【中・高共通】 ・重点取組分野として「学校評価プラン」に基づき、学校評価委員会が「2021年度自己点検・評価報告書作成計画」を策定して、組織的・計画的に取り組むことができた。 ・前年度の相互評価の指摘事項を全教職員で共有すると共に、各項目毎の担当部署を明確にし、各委員会、各担当者会は評価指標に基づいて自己評価することができた。
今後の課題	【中・高共通】 ・学校評価委員会は、「自己点検・評価報告書作成計画」を2学期中に策定し、早めに全教職員に周知し、年度途中でも改善を図れるようにする。 ・すべての校務委員会、担当者会は本年度設定した評価指標と目標が適切であったかを検討し、改善する。
2022年度の 取組目標	【中・高共通】 ①全教職員が自己点検・評価の結果を共有し、改善に向けて共通理解を深めるために、学校評価委員会を中心に組織的・計画的に取り組む。 ②自己点検・評価の結果を学校の教育活動・学校運営に反映させるために、すべての校務委員会、担当者会は評価指標と目標を適切に設定する。